

「水中遺産」登録の可能性は大

与那国海底遺跡

本土の作家らが魅力語る

グラハム・ハンコック氏 「失われた文明の一つ」

【那覇】歴史ロマンを語る「いまよみがえる与那国海底遺跡」と題するパネルディスカッションが十二日、那覇市内であった。十年間研究を続ける木村政昭琉球大学教授が「エネスコの水中文化遺産登録の見通しは明るい」と報告したほか、パネリストが「夢見たばかりでみるる海底遺跡はほかにない。非常に貴重な」と語るだけでおもしろい「妄想が膨らむ」と魅力を語った。「神の封印」「神々の指紋」の著書で知られるグラハム・ハンコック氏は記念講演で「人間の手によるもの以外に考えられない」と指摘、失われた文明の一つだと強調した。



荒俣宏、木村政昭、ゆたかはじめ（右から）の3氏が「与那国島海底遺跡」のロマンを語り合ったパネルディスカッション＝12日、沖縄ハーバービューホテル

沖縄と本土の経済人による協力交流の場となっている沖縄懇話会の主催。三上智恵キヤスター（琉球朝日放送）を司会に木村教授のほか、作家の荒俣宏氏、エッセイストのゆたかはじめ氏が出席した。

木村氏は「遺跡」がある海底が一万年前は陸だったと説明した上で、道路や石積みなどを例に「このような構造物は自然にできるものではない」と説明、石板や彫刻を発見したことを報告した。ユネスコで検討されているという水中文化遺産について「要望を受け資料を提出した。見直しは明るい」と語った。

「初めてみたところアツと驚いた」という荒俣氏は「二万三千年前の遺跡が残っている。どういった文明に位置づけられるのか。妄想が膨らむ」と舌を巻いた。ハンコック氏は「人工でも自然でも、みているだけでも、これを観光に生かさない手はない。海中遺跡台やガラスのトンネルを

つれないか」と夢をふ

「日の丸」踏んで 民兵行進

サマワでサドル師派

【サマワ12日時事】陸上自衛隊が駐留するイラク南部サマワで十日、イラム教シーア派の反米指導者サドル師派の民兵「マハディ軍」とその支持者約千人が式典を開き、路上に大きく描かれた日の丸やイスラエル国旗、米軍の軍旗を踏んで行進した。

式典は、一九九九年に旧フセイン政権に暗殺されたムハンマド・サドル師を追悼するもので、毎年行われている。ムサンナ州の警察本部長らが参列した。昨年日の丸の上を踏み付ける光景は見られず、警察が反日姿勢を強めている実態が浮き彫りになった。

くのみをきた。記念講演でハンコック氏は「失われた文明は世界中にある」と持論を展開し、失われた理由を氷河期後の海面上昇にあると説明。「失われた文明は人類の過去を探る上で重要だ」と強調した。

都市農村交流施設 「活用不十分」

農水省に改善勧告

地方自治体に対する農水省の都市農村交流関連補助事業をめぐり、都市との交流目的で整備された施設でありながら、利用者の70%以上を地元住民が占めるなど、都市と農村の交流に活用されていない例があることが、

十三日付で総務省が発表した行政評価・監視結果で分かった。同省は適正な措置を講じるよう、農水省に勧告した。

調査対象となったのは、農水省の山村・都市交流促進事業などで整備された二十都道府県の九十施設。グリーンツーリズム

年の

この成瀬、アイチャ、八万博、愛のない凶悪事件も。今年の世相を漢字一文字で表す。今年の漢字一は